

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 Cユニット)

事業所番号	0670400951		
法人名	生活クラブやまがた生活協同組合		
事業所名	グループホーム結いのき		
所在地	山形県米沢市花沢町2695番地の4		
自己評価作成日	令和3年11月20日	開設年月日	平成16年2月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活クラブやまがた生活協同組合が行ってきた「助け合い活動」たろう所の理念を継承し、市民参加型福祉を実践している。建物の設計から運営に至るところまで「結いのきグループを支える会(自主ボランティア団体)」の協力を得て、より良い介護が継続できるよう共に歩んでいる。コロナ禍により職員の健康状態の把握やホーム内の除菌などにも留意し、感染者を出さないよう日々努力している。□
□
□

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 3年 12月 17日	評価結果決定日	令和 4年 1月 6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1ユニット目に記載

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「たころう所憲章」を理念とし、通路やユニットに掲示している。常に目を向けて意識を持てる様にし、実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染予防の為、行事等での交流は少なくなったが、資源ゴミの回収、畑作りや草刈り等では地域の方に大きな力を頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染予防の為、認知症の理解を得る為の交流は出来なかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は行なわずにいるが、運営推進委員の方々へは、利用者の状況、事故報告、ヒヤリハット等を郵送で報告、意見を頂き、その内容を全職員で共有している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	「コロナウイルス感染拡大」という今までにない状況の中で、更なる指示、指導、助言を受けている。相談員の訪問については、市からのアンケートに回答し実施に向け検討している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	やむを得ない状況の時のみご家族の同意を得て実施していたが、R3年6月に身体拘束解除を検討実施しゼロとなった。また、身体拘束適正化委員会を3ヶ月毎に開催し、全体での理解・検討を深めている。新規職員に向けた研修を行ない、身体拘束をしないケアの実践に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	一部の職員ではあるが、虐待に関するオンライン研修を受講し、防止に対する認識を高めている。また、受講していない職員にも講義資料を配付し内容を共有した。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に利用していた方、また利用の必要性の有無を判断する機会があったことを踏まえて、今後も利用の必要性を判断すべき時には、改めて理解を深める心構えをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	コロナウイルス感染予防の為、山形県外(関東)在住のご家族には、文書、電話やメールで繰り返し説明し、理解を深め、不安軽減に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の面会は、制限期間中の為、機会が減った分、電話、メールでの報告、連絡、相談をこまめに行ない、意見、要望を伺っている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は毎日各ユニットを回り職員の意見を引き出す機会を作っている。また、各ユニットミーティングにも出席し、各々の意見を聴いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎日区ユニットを巡り、出勤している職員との何気ない会話から、様子、思いを汲み取っている。また、必要に応じ、個人面談の機会を設け、職員の意識の向上に努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルス感染予防対策の為、内・外共に研修の機会が少ない中、安全を考慮しながら、できる限り不幸出来る様働きかけ、勤務にも配慮・調整をしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修会等、集まりの場への参加の促しや、同業者と交流する機会は、現在はコロナ禍の為以前のように実施出来ていないが、外部からの研修生の受け入れは以前同様実施しており、刺激を受けながらより良いケアへの意識を高め、スキルアップを図っている。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とお茶を飲んだり、興味のあることや昔の話を聞くことで、安心してもらい、要望や不安なことを話してもらえるように努めている。また、ご家族に入居前の生活を出来るだけ詳細に伺い、ご本人が安心して生活を継続出来る様努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いをじっくりと聴く時間と環境を作り、面談することで、困っていること、不安なことを引き出せるよう傾聴に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族からの聞き取りで、状態把握を行い、必要な支援は何かを見極めるよう努めている。必要時は他のサービス機関への紹介も含め対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の意見や思いを大切にし、日々の中で取り入れるようにしている。出来ることを主として行って頂き、職員は補って手伝う立場であることを認識している。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡を密にするよう努めている。小さなことでも変化や喜びを伝えて共有するように配慮している。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方に面会していただけるようお願いしている。時には一緒に記念撮影し、飾ることで面会者との話題作りにつなげている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの性格、運動機能面等を考慮し、食事の席を検討している。お互い、良い関わり合いが持てるよう挨拶や会話の仲介をし、また作業、運動、遊びを考えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	代表者は、利用者が亡くなられ退室された後にも、初盆には挨拶に伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴や日々の生活の中での会話や様子から推察している。現在行なっていない趣味なども検討内容に入れ試行したりしている。その他、随時ご家族と相談しながら一人ひとりの意向把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の調査の際、ユニット長、計画作成担当者が同行し、本人、ご家族、施設職員から詳細な聴き取りを実施するとともに、フェイスシート等からも情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の日誌や個人記録を確認、把握するとともに、ユニットミーティングにおいて、個々の現状について居室担当者を中心に検討を重ねている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の要望、主治医からの意見を伺うとともに、モニタリングや居室担当者を中心とした現状の検討により、本人の状態に即した介護計画となるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化や気づき、家族の言葉、実施した結果等を記録することにより、情報を共有し、ミーティング時に全員で検討、見直しを行い、実践に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>ボランティア組織である「結いのきグループを支える会」のメンバーに各種の行事や教室開催の協力を得ている。地域、町内会主催の昼食会や、さいど焼きなどの行事に参加・交流しているが、現在はコロナウイルス感染予防の為自粛している。</p>			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>月1回の主治医による定期診察、半年に1回の歯科医の検診を受けている。また、個別に専門科の受診の支援を行なっている。状態変化時は、電話やファックスでの報告・相談を迅速に行なっている。</p>			
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師所在時(3回/週程度)に個々の体調の変化等を報告、相談し、ケアの指示を受けている。また、緊急時には電話相談や、来所での対応を行なっている。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には情報提供書にて情報を提供するとともに、担当医、担当看護師、相談員の経過説明に家族と同席し、状態の把握や家族の意向等を詳細に聴き取りしている。退院時も、医師、看護師からの経過説明に同席し、本人や家族の意向に沿いながら、安定した生活を継続出来る様支援している。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>主治医から家族へ、必要時応じて予後と、看取りについての説明を行なっている。家族、主治医、看護師、職員で対応について 相談、共有し、本人と家族にとって最良の時間を過ごせるよう支援している。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置のほか、職員は救急救命講習を受け緊急対応に備えている。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震時、豪雨災害時の対応マニュアルを作成している。また、年2回の避難訓練を実施している。			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、その方に合った声かけ、対応を心がけ、傾聴、共感するよう努めている。			
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に意思確認を行ない、思いを表現、自己決定が出来る環境作りや声かけを行なっている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の趣味や生活のペースを把握、理解し、楽しみを持ち、居心地良く生活出来る様支援している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好む服装や身だしなみ、おしゃれが出来る様支援し、ご家族にも協力を頂いている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	安心・安全な食材の提供にこだわり、嗜好に合った料理や、季節感のある食事が提供できるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは、肉、魚、野菜、果物など、毎食バランスの良い献立にしている。また、個々の状態にも合わせ、形態や、補助食品なども必要に応じて対応している。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立を基本としながらも、歯科衛生士のアドバイスを参考に、必要な方は一部介助を実施している。歯科衛生士による口腔ケア指導(居宅療養管理指導)を受けている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意、便意を表現できる方はできる限りトイレで排泄が出来るよう対応している(2人介助など)。その他、直接的な訴えがない方でも、様子から思いを察したり、時間を見ながらトイレ誘導を行なうなど対応している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防に毎朝ヨーグルトや、野菜ジュースなどを提供している。その他、本人の状態に合わせて下剤類も併用するなど、適切な排便コントロールに努めている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴状況を見ながら、適宜入浴の声がけをしている。その時々のお気持ちに合わせてながら、出来るだけ本人が入りたいときに入れるよう配慮している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	集団的な生活リズムではなく、ご本人の状態を優先し、疲れた様子があった際は随時休んでもらっている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容に変化があった際は、日誌にお薬の説明書を掲示し、内容、用法などを全職員で共有している。また、観察のポイントなども個人記録に記入し、留意するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌謡曲や歴史番組などを録画し、興味のある方が随時見て楽しめるよう支援している。また、家事の手伝いや、干し柿作り、笹巻き作り、ぼた餅作りなど、以前自宅でしていたことを行なって頂き、気分転換や張り合いにつながるよう支援している。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候や本人の体調を考慮しながら、ホーム周囲の散歩や季節毎のドライブなど、季節の移り変わりが感じられるよう支援している。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の出来る方は自分でお金を管理し、そうでない方は職員が代わりに支払いを行なうなどして外出時に買い物を楽しめるよう支援している。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の協力をお願いしながら、施設の電話か本人の携帯電話でおはなしして頂いている。必要時にはケアプランにもその旨が入れられる場合がある。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に清潔を心がけ、換気を行ない、良い環境作りに配慮している。季節にあった花や、装飾品を飾り、季節を感じながら居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人を好む方には、テーブル位置を工夫し、共用空間でも個人のスペースが取れるよう配慮している。気の合う方同士は、同じテーブルを囲み、いつも同じ席に座ることで安心できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力を得ながら、本人の好きなもの、馴染みのあるものを置き、心地良く過ごせるように工夫している。時には精神面を考慮し、過剰な刺激を与えないようにしている。また、動線上に障害となるものがないように留意している。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニット内には段差がなく、歩行や歩行器を使用しでの移動が安全に出来る様になっている。居室の入り口には、のれん、表札代わりの飾りをし、自分の居室であることを認識しやすいよう配慮している。		